
「ロボット支援下回腸囊肛門(管)吻合術後の臨床経過と肛門機能評価に関する研究」に関するお知らせ

このたび、当院消化管外科・一般外科でロボット支援下回腸囊肛門(管)吻合術を行った患者さんの臨床情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学総合医療センター 研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2015年4月1日から2026年3月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センター消化管外科・一般外科を受診し、開腹、腹腔鏡下またはロボット支援下回腸囊肛門(管)吻合術をうけた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

潰瘍性大腸炎や家族性大腸腺腫症に対する大腸全摘・回腸囊肛門(管)吻合術は、排便機能と肛門機能を温存する標準的再建術式です。近年、ロボット支援下手術の導入により、骨盤深部での精緻な操作や自律神経温存が容易となり、術後の肛門機能保持が期待されています。しかし、ロボット支援下大腸全摘・回腸囊肛門(管)吻合術の肛門機能を客観的指標とQOL調査を用いて経時的に評価した報告はほとんどありません。前向き研究・後ろ向き研究として、ロボット支援下回腸囊肛門(管)吻合術後の肛門機能を経時的に評価し、術後機能低下に寄与する因子を抽出することで、今後の診療技術向上に生かすことができると考えています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2032年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2026年7月10日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

埼玉医科大学総合医療センター消化管外科・一般外科にて施行された開腹、腹腔鏡下手術、ロボ

ット支援下回腸囊肛門（管）吻合術を行った患者さんの病歴、周術期成績、検査データ、術後の排便機能や排便状況

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センター消化管外科・一般外科において、研究責任者である松山貴俊が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

上記

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究責任者：

埼玉医科大学総合医療センター 消化管外科・一般外科 准教授 松山貴俊

研究実施者：

埼玉医科大学総合医療センター 消化管外科・一般外科 助教 入江直子

埼玉医科大学総合医療センター 消化管外科・一般外科 講師 近範泰

埼玉医科大学総合医療センター 消化管外科・一般外科 講師 白石壯宏

埼玉医科大学総合医療センター 消化管外科・一般外科 助教 高岡亜弓

埼玉医科大学総合医療センター 消化管外科・一般外科 助教 杉野葵

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

○研究課題名：ロボット支援下回腸囊肛門(管)吻合術後の臨床経過と肛門機能評価に関する研究

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター

担当：消化管外科・一般外科 准教授 松山貴俊